

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年四月度 入選句（投稿総数八百七十七句・一般投句数六百二句）

特選

選者 名和 永山

花筏 流れの遅速そのままに

岐阜市

堀江 美州

「花筏」は、桜の花びらが散つて川面に流れる様をいう。ちょうど筏のように、流れにそつて帯状になるからであろう。

川の流れはゆったりとしたところもあれば、急な流れになるところもある。その流れの速さに身をまかせるような、流れゆく様を詠んだものである。人生もまた、同じように流れに逆らわず、時や世の中の流れに身をまかすのもよからう。花筏を自分に置き換えて鑑賞するのもよからう。「下五」の「そのまま」には、余韻を残していることで、花筏がどんどん流れてくるといイメージの広がりを持たせている。

葱坊主 明日は良き日といふ予感

北海道旭川市

葛西 ともこ

「葱坊主」は、葱(萎)の先端にある球状の塊をいう。普段見ている葱や食用とする葱とは違って、先端の塊になにかユニークさを感じる。この塊は種になるが、その形は滑稽であるとも思える。作者は普段の葱とは違った葱坊主を見たことで、普段と違って明日は何かいいことがありそうだと感じたのであろう。葱坊主が明日への命を繋ぐということを感じ取った作者の深い観察である。

カンバスにおさまりきらぬさくらかな

大垣市

岩田 正

作者は絵を描く人だと想像する。特に風景画を得意としているのであろう。満開の桜を描こうとカンバスに向かったが、余りにも多くの桜にどこに焦点を当てて描こうか迷っている様子も想像できる。

何げない俳句であるが、桜の満開の様子がよく描けている。また、すべて「ひらがな」という点も工夫されている。平仮名の一文字一文字が、ちょうど花びらのようにも映るのである。

秀逸

春うれひまるくまあるく地藏書く

大垣市

吉田 てるみ

春の朝新聞受けの軽き音

大垣市

平野 きぬよ

木の芽どき血圧計の定まらず

大垣市

棚橋 みさを

人生を巻き戻したき花盛り

大垣市

山田 千歌子

恩師より激励の文卯月かな

大垣市

片山 洋紅

老いる暇あらば句作り四月馬鹿

東京都世田谷区

関戸 信治

青空に溶け込んでいる桜かな

大垣市

平野 ヒサエ

君を待つ 玄関先に沈丁花

不破郡垂井町

広瀬 康

音沙汰のなき友ありて遠霞

岐阜市

島 めぐみ

暫くの留守を頼みし内裏雛

愛知県岡崎市

鈴木 正紘

入選

糸柳ゆるりゆるりと遊びをり
 春の庭水滴間伸びして落つる
 鶯や次の声待つ山の寺
 釣人の竿影長く水温む
 自転車と蝶の乗りたる養老線
 梅東風や合格絵馬をゆさぶりぬ
 待ち人の来ないホームに桜舞う
 板の間に素足なじんで春近し
 肩の凝りすこしほぐれて花辛夷
 花衣話しだしそな芭蕉像

大垣市 安福 けい子
 養老郡養老町 田中 秀子
 不破郡垂井町 富田 実郎
 不破郡垂井町 田中 不二夫
 大垣市 大西 誠一
 大垣市 平野 ヒサエ
 大垣市 安田 むっこ
 大垣市 宮上 美濃留
 大垣市 新町 恵子
 大垣市 高木 佐知子

入選

もつれたり跳ねたり風の糸柳
 やはらかき雨となりけり木木芽吹く
 俳諧に卒業はなし花曇
 川幅に収まり切らぬ桜かな
 春時雨老舗の傘屋店じまい
 あるなしの風にふるへる豆の花
 集落のひそと張りつく山は春
 犬ふぐりかがめば数多かたまりて
 少年の髭なほ薄し亀の鳴く
 大空の余白に立てり松の芯

大垣市 田中 雅子
 大垣市 安田 直隆
 大垣市 村田 通夫
 愛知県豊橋市 廣中 雅子
 大垣市 平野 きぬよ
 岐阜市 伊藤 瑞美
 神奈川県横浜市 龍野 ひろし
 揖斐郡揖斐川町 栗野 みねお
 愛知県名古屋市長 岩田 勇
 瑞穂市 谷 牛歩

選者吟

春の虹なにかが起こりさうな時

永山